

## 令和7年度 麻溝台高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令順守意識の向上	職員行動指針を再確認し、勤務時間外や職場外の行動についても、教育公務員としての高い倫理観を持って行動する。	「教職員のコンプライアンスマニュアル」と不祥事防止啓発資料を用いて、不祥事防止研修会を実施した。また、不祥事の記者発表資料等を職員室に掲示して信用失墜行為がないよう注意喚起を行った。その結果、法令順守の意識の向上を図ることができた。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ等）の防止	パワハラ・セクハラ、マタハラ等をゼロにする。	啓発資料を用いた定期的な職員研修の実施や管理職を中心とした相談体制を確立し、ハラスメントに対する理解、意識を深めるとともに、相談環境の整備を推進した。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	生徒に対するわいせつ・セクハラ行為をゼロにする。	わいせつ事案をはじめとする不祥事防止に向けた取組については、継続的・計画的に校内研修会等を実施した。その結果、教職員の意識が向上し、不祥事防止につながった。
体罰・不適切指導の防止	体罰、不適切指導の発生を未然に防止する。	不祥事防止会議等を通して、各自の人権意識を高めることができた。また、その結果、教職員の意識が向上し、不祥事防止につながった。
入学選抜に係る事故防止	入学選抜に係る各種業務執行について、教職員の意識やシステムの適正化を図り、事故を未然に防止する。	入学者選抜業務に関しては、出願システム、採点システムなどのICTの活用や、入選要項作成にあたり、担当グループ又はプロジェクトチーム等で点検体制を構築し、慎重に業務を進めた。その結果、ミスなく適正に業務を行うことができた。
定期試験、成績処理、進路関係書類に係る不適切な事務処理の防止	定期試験、成績処理及び進路関係書類の作成と扱いに係る事故の発生を未然に防止する。	定期試験問題・解答用紙、通知表、調査書等の作成や成績処理について、マニュアルに則った適正な処理・点検を行い、点検表を作成し、職員同士の相互チェックを強化した結果、適正に業務を行うことができた。常にマニュアルを見直し事故のないよう努めていきたい。
個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	個人情報の流出を未然に防止する。	個人情報の取扱いについて、各教職員が日常的に点検・チェックを実施する姿勢が見られた。その結果、教職員の意識が向上し、不祥事の防止につながった。
交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止	交通事故の発生を未然に防止するとともに酒酔い、酒気帯び運転のゼロを維持する。	交通マナーの順守に対する意識啓発を行うことで、交通違反や交通事故の未然防止に努め、事故等の発生を防ぐことができた。

業務執行体制	各種業務執行に際して、教職員の意識やシステムの適正化を図り、事故を未然に防止する。	事故防止に向けた職員啓発資料等を活用して、職員研修を実施した。その結果、教職員の意識が向上するとともに、各自が事故への未然防止に向け、自覚と責任を持って取り組む姿勢が見られた。
財務事務等の適正執行	私費会計の適切な執行についての認識を深め事故の発生を未然に防止する。	今年度の書面での財務事務調査を通し、財務適正な執行に向け職員の意識を高め、私費会計基準に則った事務処理及び物品管理を徹底した。特に、私費予算の適正かつ計画的な執行について指導助言を行った。
経験の浅い教職員（採用5年以内）への不祥事防止	県民の信頼を損なうことのないよう、厳正な服務規律の確保に努める。	初任者には、指導担当者による研修を通して、服務規律等の研修を行った。管理職や同僚による声掛けを行い相談がしやすい環境づくりに努め、社会人、公務員としての自覚や不祥事を起こさない意識を醸成した。

## ○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

令和7年度の不祥事ゼロプログラムを検証すると、行動計画に基づき、ほぼすべての項目において概ね達成できた。適時、不祥事防止啓発資料等を用いて、職員が輪番で不祥事防止研修会の講師を担うことで、職員の当事者意識の醸成に繋げることができた。特に、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為、体罰の防止については、不祥事防止に向けた研修や個別面談を通じ、職員への意識啓発を行った。今後も引き続き研修等を通じ継続していく。

令和8年度においては、現状に甘んじることなく、マニュアル等を見直し改善を図るとともに引き続き生徒等へのわいせつ行為を筆頭に、財務事務の適正な執行と不適切な公金等の扱い、パワハラ・セクハラ等、令和7年度に県内で不祥事が発生した事案を踏まえ、職員との日常的な会話の中で情報共有をし、風通しの良い職場づくりを目指していきたい。また、対生徒・職員間の人権尊重意識の拡充を図り、適時に研修を取り入れ、不祥事を未然に防ぐことができるよう取り組んでいきたい。